

人に

金網の中で七面鳥は
きよつ と鳴いて二三步動くと置物のやうに立止る
お前にあのたくましが少しでもあつたなら……
お前はだまつて眺めてゐる
その細い肩に僕の肩をかすかにふれてゐて
僕はだんだん自信がなくなるのを感じた
すみれみたいなお前
お前の声はきれいすぎる
苦しさや憂鬱を半分支へてもらはなければならないのが
残酷な気持がする
静かな午前の光の中で
のどの毛をふくらませ
むらさき色のとさかをみにくく誇つてゐる奴！
ああ 結婚するか別れるかしか方法がないなんて